おがつ いしのわ

雄勝いしのわ プロジェクト

平成 26 年 12 月 10 日発行

No.7

～雄勝石産業を核とした場づくり、モノづくり、人づくり

バルセロナ報告会

「東北への道　-自然・伝統・イノベーション -」

せんだいデザインウィーク「玄石七様」

in メディアテーク

おがつ店こ屋街 3 周年記念 ホタテまつりの運営支援

東北学院大学デフォレスト館復原考察に関する研究協力 雄勝町仮設工房

雄勝硯伝統産業会館の構想について

東北大学雄勝スタジオとの意見交換

熊本県伝統工芸館展示会

『東北工芸支援展　～宮城・岩手の手しごと～』

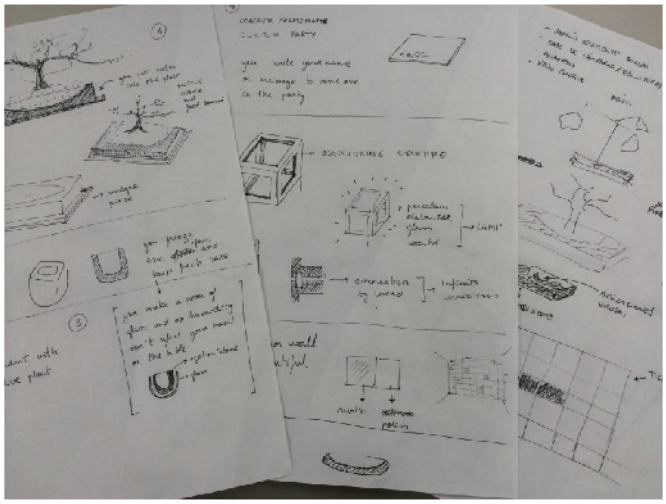
親子で雄勝石に触れて五感で体験する ツアーに本プロジェクトが受け入れ

～「学都仙台・宮城サイエンスデイ in 石巻」企画参画より～

バルセロナ報告会

「東北への道　- 自然・伝統・イノベーション -」

日本とスペインとの交流 400 年を背景に、復興支援とビジネス交流事業を目的にした「支倉プログラム」という団体からの呼びかけにより、スペイン・バルセロナにて、東北を紹介する「東北への道　- 自然・伝統・イノベーション -」が行われ、「いしのわプロジェクト」と復興大学が中心となり、宮城の伝統工芸品の数々を出展しました。雄勝硯生産販売協同組合を始めとする、みやぎ地場産品開発流通研究会が主体となり、各地の手仕事を紹介しました。展示会は 2 か月の長期に亘り、開催され、現地での反響はとても大きく、雄勝硯や仙台箪笥を始めとする手仕事の高い評価を頂きました。バルセロナの展示会終了後、東北工業大学一番町ロビーにて海外展示の報告会を開催しました。雄勝硯生産販売協同組合理事長の澤村氏（と、仙台箪笥熊野洞代表熊野氏とより）よりスペインで交流したデザイナーによる商品開発の提案やアイディアについてご報告を頂きました。報告会では、伝統工芸品の価値の見直し・再発見を行うことで、新しい発想へつなげることの重要性が議論されました。また雄勝石の可能性として、ランプシェードなどを始め多数の提案を頂いたことなどを報告しました。



硯という文化はヨーロッパには存在しませんが、非常に新鮮な手仕事として評価をされている点を考慮にいれ、硯の価値や書の文化の伝搬をどのように展開するか、またスレート皿については、評価は非常に高いものの、高額である点など、課題もクローズアップされました。そのため、工芸品（雄勝石）の海外展開においては、「使用の用途や日常の中でのライフスタイルデザインの創出」と、「伝統と歴史文化の発進」という両輪を踏まえた調査・研究、開発が必要であるという認識に至りました。引き続き、いしのわプロジェクトにおいては商品開発や海外展開・交流という部分においても活動を継続していきたいと考えております。

せんだいデザインウィーク「玄石七様」
in メディアテーク

2004 年に始まり第 11 回を迎えたこの催しは、仙台におけるデザイン各分野の試みを刻み、発信するものであり、今回は日本建築家協会（JIA）からの打診を受け、参加させて頂きました。玄昌石は、工芸品から建築用材まで様々な姿に変化し、その広い有用性は比類がありません。そこで、この機会を通して、その有用性と魅力をデザイン的見地から再考すべく「七様」と銘打ち、公開ワークショップを実施しました。すなわち、①御神体と現地風景、②板碑・絵馬・扁額、③硯、④石盤、⑤天然スレート（屋根・外装）、⑥食器と日常工芸といった実績に加え、この場を通して第七番目の有効な活用策へのヒントを探ることを目的としました。始めに雄勝硯生産販売協同組合から高橋頼雄氏による解説があり、その後、５つのテーブルに分かれて加工体験とアイディア創出を行いました。参加者は、東北工業大学の関係者がやや多かったものの、雄勝町出身の方々やスレート研究の先達、建築家、デザイナー、金工師らと多様な顔ぶれで、充実の催しとなりました。出されたアイディアはどれも興味深く、ここでの成果は、１月に行われる同組合での「いしのわ会議」にて報じる予定であります。

東北学院大学デフォレスト館復原考察に関する研究協力雄勝町仮設工房

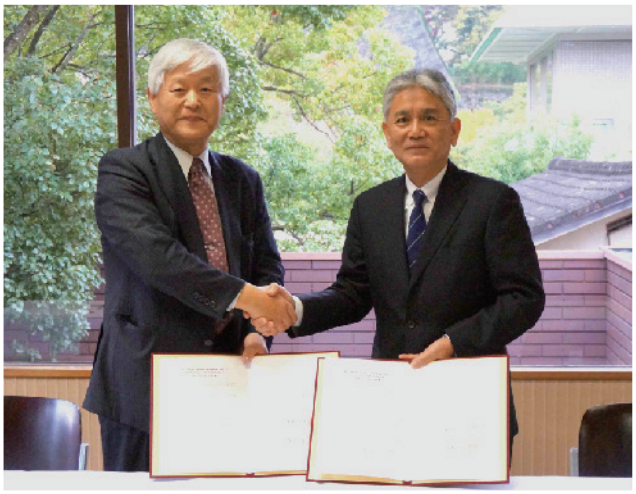
東北学院大学では、宣教師デフォレストの居住した住宅遺構を保存しており、登録有形文化財に指定されています。この建物の屋根はかつてスレート葺きであるが、創建が明治 21 年と古いことから、当初からスレート葺きであったかどうか歴史的調査研究が進められており、本学大沼准教授が研究協力者として参加しています。この検討風景は、同建物の屋根改修時に保管されたものであり、木村氏の鑑定により雄勝産である可能性は十分あるとされたものの、それが明治中期当初のものであるか、またそれは概ねどの山の石とみられるかなど、確証に至る結論には至りませんでした。とはいえ、重要な示唆を得、両大学においてここでの知見を活かし検討を継続することが確認されました。

雄勝硯伝統産業会館の構想について　東北大学雄勝スタジオとの意見交換

石巻市雄勝総合支所、東北大学建築学科雄勝スタジオらの主導により、復興計画に整合した新たな雄勝硯伝統産業会館の構想が進められています。いしのわプロジェクトチームでは組合の現状や今後の産品開発といった見地にたって意見を述べました。道路や盛土の計画が二転三転し、計画者も大変苦労されているようですが、石製品の生産者側とて問題は山積しています。とくに石材の埋蔵量や産出の方策、加工選別の工程と当施設の利用法には不確定要素もあることから、引き続き情報交換を進めることで一致しました。

熊本県伝統工芸館展示会

『東北工芸支援展　～宮城・岩手の手しごと～』



かねてより企画を進めていた熊本県伝統工芸館での展示会、『東北工芸支援展　～宮城・岩手の手しごと～』をこの度 11 月 18 日～ 24 日まで開催しました。本復興支援展示即売会は雄勝硯を始めに、みやぎ地場産品開発流通研究会 (雄勝、秋保、津山、岩出山、鳴子)、鳴子物産協会 (鳴子こけし)、大野木工生産グループを合わせ 157 品目 (550 点) もの作品を出展し、多くの方に東北の工芸に触れていただくことができました。また、本展示会に合わせて本プロジェクト代表である菊地良覺が「地域の暮らしとせいさんをデザインする～東日本大震災の工芸産地の復興支援プロジェクトを事例として～」と題した講演を 11 月 23 日（日）におこない、多くの方に参加いただくことができました。今回の復興支援展示即売会を始めとし、本学と一般財団法人熊本県伝統工芸館との連携・協力に関する協定書調印式が 11 月 17 日午後、熊本市の熊本県伝統工芸館において行われました。本学と熊本県伝統工芸館とは、これまで互いに指導を受けた秋岡芳夫先生（熊本県出身宇城市出身の日本代表とする工業デザイナー。1977 年から東北工業大学工業意匠学科教授・学科長として木工芸産業育成、東北地域振興に尽力）を通じて、長年にわたり培ってきた信頼関係を基盤に、工芸産業の活性化に向けて、より緊密かつ組織的な連携・協力の推進・強化を図ることに合意し協定を締結しました。なお、復興支援展示即売会・講演会並びに連携協定調印式は、熊本日日新聞社や地元テレビ 3 局に報道されました。熊本市の「FM791(熊本シティエフエム)」の番組に出演し、本プロジェクト活動を始めとする工芸産地の活性化や復興支援について紹介しました。

「おがつ店こ屋街 3 周年記念ーホタテまつりー」 設営・運営支援

11 月 16 日におがつ復興市実行委員会主催「おがつ店こ屋街 3 周年記念ーホタテまつりー」が盛大に行われました。新鮮なホタテ 10 枚入りを 1 箱 1000 円で販売するとあって、早朝から多くのお客様が列をつくりました。東北工大の学生と教職員は、前日は会場準備をして現地に宿泊、当日は 6 時から雄勝の皆さんとホタテの箱詰め作業を行い、10 時催事開催後は、ホタテの引き換えやおがつスターズの屋台をサポートしました。1100 箱用意したホタテは 11 時には完売しました。

イベントを通して、雄勝には元気な人、美味しいものが多くあることを知っていただいたと思います。これからも多くの方が雄勝に足を運んでくださいますよう願っています。

組み立て式屋外ベンチ制作

伊藤研究室では建築学科新井研究室と 2011 年 6 月より仮設カスタマイズお助け隊を結成し、仮設住宅居住者に収納や棚、ベンチ等を作る活動をしてきました。現在のおがつ店こ屋街には、平時はもちろん催事の時にも訪問者が休憩や交流をする場があまりありません。今回はカスタマイズの経験を活かし、また木工場の斎藤英樹氏に協力をいただいて屋外スペースを有効に使えるように収納や組み立てが容易にできるベンチを制作しました。

雄勝のミニホタテまつりと雄勝石モノづくりコーナー（あすと長町仮設住宅）

雄勝町の魅力（食や雄勝石）を知っていただくため、他の被災地の現状を知り、お互いに復興や再生に向けて力を蓄えていただくために、仮設カスタマイズお助け隊などで活動している「あすと長町仮設住宅」で『ミニホタテまつり』を開催しました。学生が各戸を訪問してお誘いしたこともあって、老若男女、多くの方が食べたり、作ったりして時間を過ごされました。雄勝石に触れるのは初めての方も多く、美しい石肌に魅せられていました。

親子で雄勝石に触れて五感で体験するツアーに本プロジェクトが受け入れ

～「学都仙台・宮城サイエンスデイ in 石巻」企画参画より～

本企画の主催の「ＮＰＯ法人 natural science」から本学への参画要請に対して、「雄勝いしのわプロジェクトチーム」が受け入れ、11 月 30 日（日）に雄勝硯生産販売協同組合の生産工房で「親子で雄勝石に触れて五感で体験するツアー」を実施しました。当日の参加者は県内の親子 50 名程で、現地到着後に組合の千葉事務局長から雄勝石の歴史や現在の商品の解説を受けた後、石割の体験を子供たち全員が行いました。昼食後からは、石の未利用材を活用したＭｙオブジェづくりに全員がチャレンジしました。参加者からは「雄勝石の魅力を知った」、「オブジェづくりは楽しかった。もっと作りたい」等の声が多くあり、限られた 5 時間の体験でしたが、全員が満足したツアーであり、サポートした本学の教員と学生にとっても価値ある内容と捉えています。

未利用材活用のモノづくりと石磨きボランティア

「商品になるものを制作するのに関わることができ、貴重な体験ができた」

現在、雄勝硯生産販売協同組合への商品需要は、石食器等が主であり、注文ロットが 1000 個単位が多く、手仕事部分が多い作業工程にあっては、人手不足となっているのが現状と言えます。以前にも紹介した東北工業大学の学生による石磨きボランティアはその意味では不可欠となっており、主に１～３年生が石磨きを行っております。参加学生からは「商品になるものを制作するのに関わることができ、貴重な体験ができた」、「思っていた以上に繊細な作業で驚いた。慣れてくると楽しい作業だった」、「最初は難しかったが、作業を進めていくうちに何処をどのくらい磨けばいいのか把握することが出来た」などがありました。これらの活動に学生が参加することにより生産現場を体験し、モノづくりの知恵と技、文化を学ぶことになりました。

また、同時に「未利用材を使用したモノづくり」を実施しています。未利用材を使用したモノづくりとは商品などを制作する際に出る端材を利用し新たな商品展開の可能性を探る取り組みです。東北工業大学の学生、地域の方々、「学都仙台・宮城サイエンスデイ in 石巻」の来場者など様々な方々に体験していただき、多くの意見を頂きながら実施しています。

活動記録

2014

8/30　雄勝プロジェクト食のワークショップ
　　（公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク MELON 参画）
9/3-4　仮設工房周辺の場づくり調査やカスタマイズ作業
9/5　サイエンスディ in 石巻打ち合わせ
9/6　雄勝石を使ったモノづくりワークショップ（卸町５丁目仮設住宅にて）
9/16　雄勝プロジェクト打ち合わせ
9/24　石磨きボランティア
9/24　みやぎ地場産品開発流通研究会打ち合わせ
　　熊本伝統工芸館展示会に向けて
9/24　バルセロナ報告会
9/26　石磨きボランティア
9/29　雄勝総合支所や雄勝硯生産販売協同組合の方に調査と打ち合わせ
　　雄勝にてパーゴラ基礎部分を雄勝石で貼用
9/30　石磨きボランティア
10/1　実習の授業で菊地研・伊藤研学生の石製品づくり
10/14　木工場の齋藤氏と雄勝イベント時使用ベンチについて打ち合わせ
10/18-19　大学祭
10/21　セミナーの授業で菊地ゼミ１年生の石製品づくり
10/26　雄勝石見分け調査
10/30　河北新報掲載（親子、米国産牛肉に挑む、玄昌石で作った皿で舌鼓）
10/31　石磨きボランティア
11/4　城南高校 academic インターンシップ生徒の石製品づくり
11/6　東北大　場づくりワークショップ
11/11　城南高校 academic　インターンシップ生徒の石製品づくり
11/12　石磨きボランティア
11/14　河北新報掲載（新鮮ホタテ格安販売）
11/15　おがつ店こ屋街３周年記念　ホタテ祭りの準備
11/16　おがつ店こ屋街３周年記念　ホタテ祭りの運営
11/17　河北新報掲載（海の復興　食べて実感）
11/17　一般財団法人熊本県伝統工芸館との連携・協力に関する協定書調印式
11/18-24　熊本県伝統工芸館　展示会
11/20　河北新報掲載（新鮮ホタテ大人気）
11/21　河北新報掲載（復興グルメ F-1 大会　おがつ店こ屋街にも賞）
11/27　河北新報掲載（東北の手業一堂に）
11/28　河北新報掲載（体験型で科学身近に　30 日石巻でサイエンスデイ）
11/29　あすと長町仮設住宅にて石製品づくりワークショップ
11/30　雄勝ワークショップ（学都仙台・宮城サイエンスディ in 石巻）
12/1　河北新報掲載（古式神事「湯立」を守る　霧月神楽と雄勝法印神楽）
12/2　河北新報掲載（科学の目で地域を知る石巻を会場にサイエンスデイ）
12/3　石磨きボランティア
12/4-10　せんだいデザインウィーク　展示
12/5　せんだいデザインウィーク（ワークショップ「玄石七様」）

編集後記

本プロジェクトも２年目の後期に入りましたが、「場づくり」「モノづくり」「人づくり」の３つのアクションプログラムもそれぞれが再生の具現化を目指しております。「モノづくり」では、スペインバルセロナの展示会で面会した在住デザイナーの角田氏が来仙し、これからのモノづくりの連携を進めることになりました。国内では熊本県伝統工芸館と本学との協定と東北の工芸復興支援とする展示販売会が盛況に開催され、次年度以降の企画展示会開催も確約されました。国内外とも今後の「モノづくり」充実に繋がることは確かなところです。「人づくり」については、モノづくりを通し、じっくりと再生することが余儀なくされており、チーム一同、地域には元気ある人が不可欠と捉えております。　（菊地　良覺）

雄勝いしのわプロジェクト
～雄勝石産業を核とした場づくり、モノづくり、人づくり～

発行元：東北工業大学
ライフデザイン学部　安全安心生活デザイン学科

〒982-8588　宮城県仙台市太白区二ツ沢６番
TEL: 022-304-5592　FAX: 022-304-5591
MAIL: info@ogatsu-ishinowa.jp　URL: http://ogatsu-ishinowa.jp/

＊本プロジェクトは「雄勝石産業の復活を核とした生産とくらしの再生」をテーマに
三井物産環境基金 2012 年度下半期活動助成（復興助成）の採択を受け活動を実施しています。